



「組織的な授業改善をするための教頭としての役割

～個々の授業力の向上に管理職が果たす役割はどうあるべきか～

宇佐市立和間小学校 南 広也

＜発表の構成＞ 15分

- 1 教頭の役割について
- 2 本校の「授業改善」の現状と課題
- 3 教頭として何ができるか

1 <授業改善における>教頭の役割について

(1) 校長の学校経営(授業改善)ビジョンを
理解する。

(2) (授業改善)ビジョンを具現化する。

(1) 校長の学校経営(授業改善)ビジョンを理解する。



学校評価の4点セット

宇佐市立和間小学校

平成29年度
4月

重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標
確かな学力を身につけた児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・単元末テストの目標値を9割の子が上回る。 ・H30年1月のCRT検査で全学年、全教科で全国平均を上回る。 <p>(教務・教研主任)</p> <p><児童会> ・おへんじキラリ ・全キカリ</p>	<p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分から考えを持つ段階で、思考の視点と発表の手立てを提示する。 ・めあて、課題、まとめと連動した効果的な「振り返り」を行う。 ・復習プリントやテストのやり直して、個に応じた補充学習を行う。 ・土曜授業、学期末の補充学習を複数体制で行う。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習、家庭読書の声かけ、見取りに取り組む。 <p>地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週1回の読み聞かせを行う。(お話の会) 	<ul style="list-style-type: none"> ・月一回の授業改善研修で、実践交流、研修を行う。(授業者点検、記録) ・年間6回の提案授業と事後研究会を行う。 ・「実践交流カード」で効果的な実践の交流を行う。(授業観察) ・ぐんぐんタイム(週4回)の内容を単元末テストと連動させ補充学習に充てる。 ・土曜授業(復習シーズン)(学期1回)を設定し、複数体制での指導にあたる。 ・10日間の見直し期間を年4回設けて、チェック、見直しを行う。 ・毎週水曜日の朝、全学年に読み聞かせを実施。
	豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価で「いいいな言葉づかいができるように気をつけている」のスコアを2.7以上にする。 <p>(体育・保健主任)</p> <p><児童会> ・ありがとうキラリ ・全キカリ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ、返事、言葉づかいを児童会テーマにして取り組む。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育を通して親子のつながりを深める。 <p>地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放生会の道行き囃子を共に歩き、地域、保護者、児童が共に達成感を味わう。

校長はどのような学校経営(授業改善)ビジョンを持っているのか？

○ 校長の学校経営(授業改善)ビジョンの概要

<授業改善の目的>

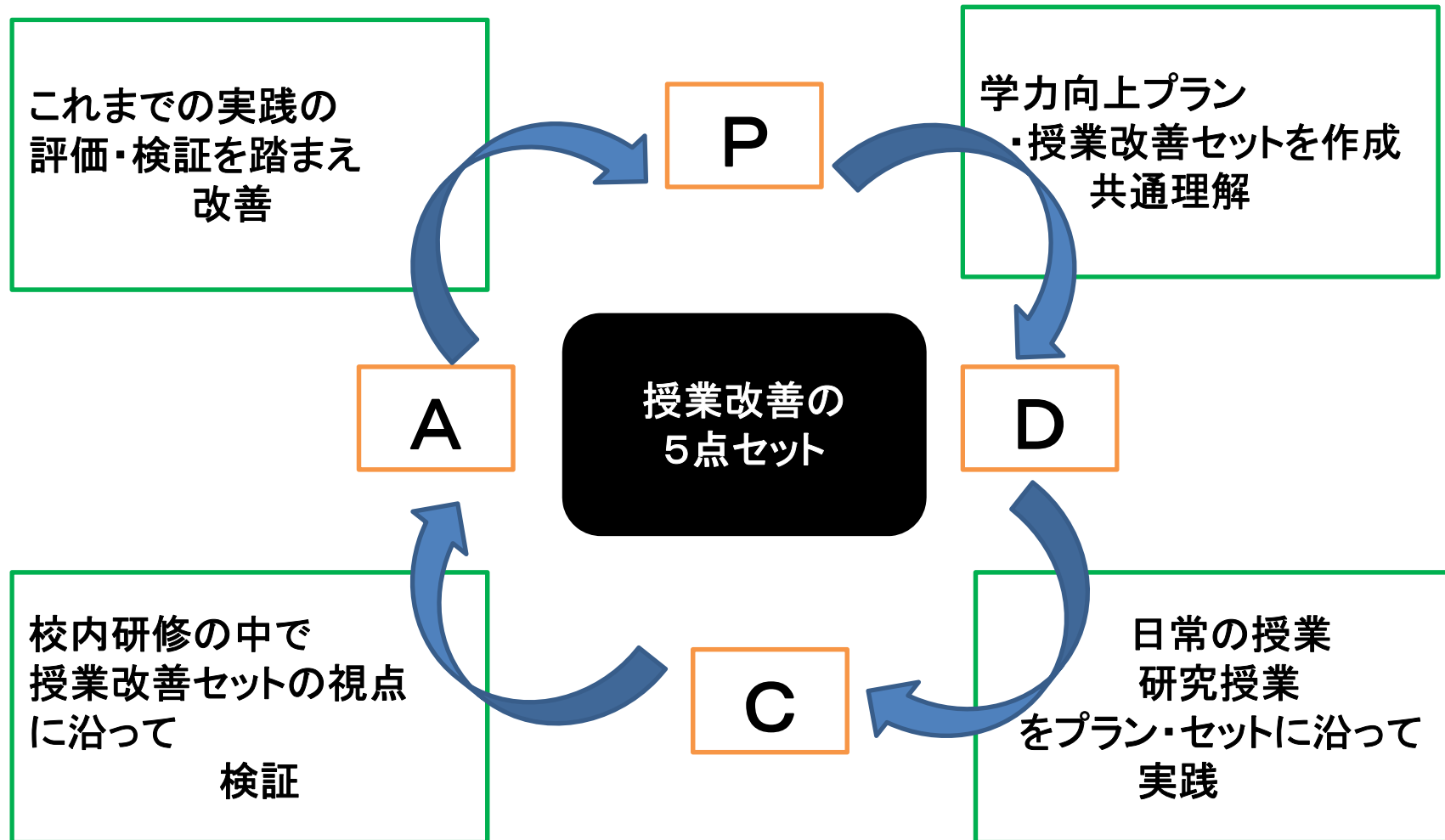
- ・本校の児童に「確かな学力」を身につけさせる（重点目標）
 - 主に教育活動のPDCAで目標に迫っていく
- ・先生方個々の授業力を向上させる（人材育成）
 - 主に経営活動のPDCAで目標に迫っていく

<授業改善をどう進めていくか>

- ・授業改善テーマ(考えを持ち、交流し、学び合う、わかる楽しい授業の創造)に沿って、組織的・計画的に進めていく。
- ・人的資源が限られている中、「授業改善研修」「実践交流カード」を最大限に活用し、全教職員で取り組む。
- ・目標管理シートと連動させる。

(2) (授業改善)ビジョンを具現化する。

＜教頭の役割＞ 課題を共有させ、組織を動かし、進捗状況をマネジメント

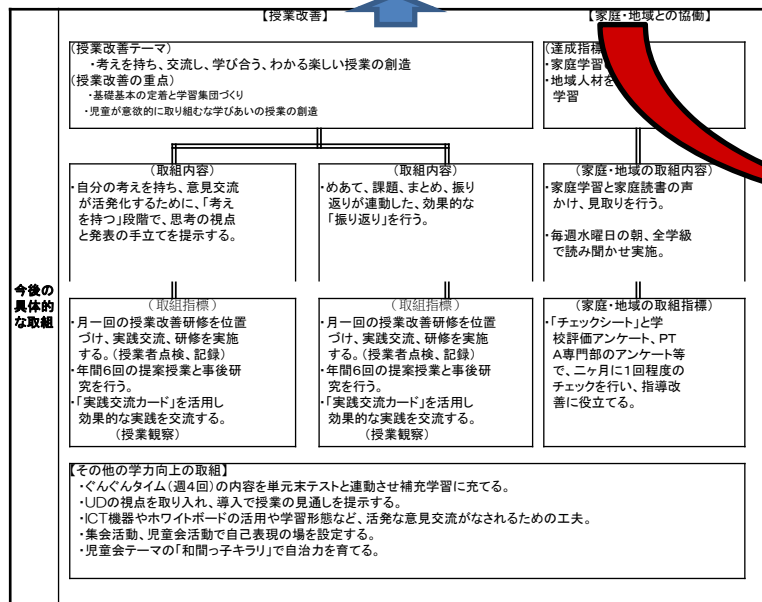


2 本校の「授業改善」の現状と課題

宇佐市立和間小学校 学力向上プラン1 (H29・4)

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	<ul style="list-style-type: none"> 1 各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 <ul style="list-style-type: none"> ・国語は読解と言葉の学習が弱い ・算数は活用問題や記述式が苦手 ・理科は理由を説明する問題が弱い 2 授業改善の検証指標に照らし合わせて評価した状況 <ul style="list-style-type: none"> ・1月のCRT検査で、1年の国語、算数、3年の国語、算数、理科、4年の理科、5年の理科が全国平均を上回らなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 <ul style="list-style-type: none"> ・1月に実施したQU検査で、三次支援(特別な支援)が必要な児童が、1年→3人、2年→1人、4年→1人、5年→2人いる。3年は二次支援(足りない支援と配慮)が必要な子が8人いる。学級集団づくりと個別の学習支援が必要である。 2 授業改善の検証指標に照らし合わせて評価した状況
指導の状況	<ul style="list-style-type: none"> 1 組織的な授業改善の取組状況 <ul style="list-style-type: none"> ・1月のCRT検査で、各学年の得点率の変化(同一集)は向上している。年度末、3年生と4年生を中心に課題 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 <ul style="list-style-type: none"> ・学び合う集団づくりの基礎として、「あいさつ、言葉づかい」を意図付けを行い、家庭学習、家庭読書の着取り、声かした。 	
学力に関する達成指標	<ul style="list-style-type: none"> <達成指標>○単元末テストの目標値を9割以上達成。○H30年1月のCRT検査で、全学年で達成率を向上させる。 <検証指標>○教職員評価で「考えを書いたり伝えたりできる」を2.4以上に上げる。 ○児童評価で「授業がわかりやすく、楽しい」を2.4以上に上げる。 	

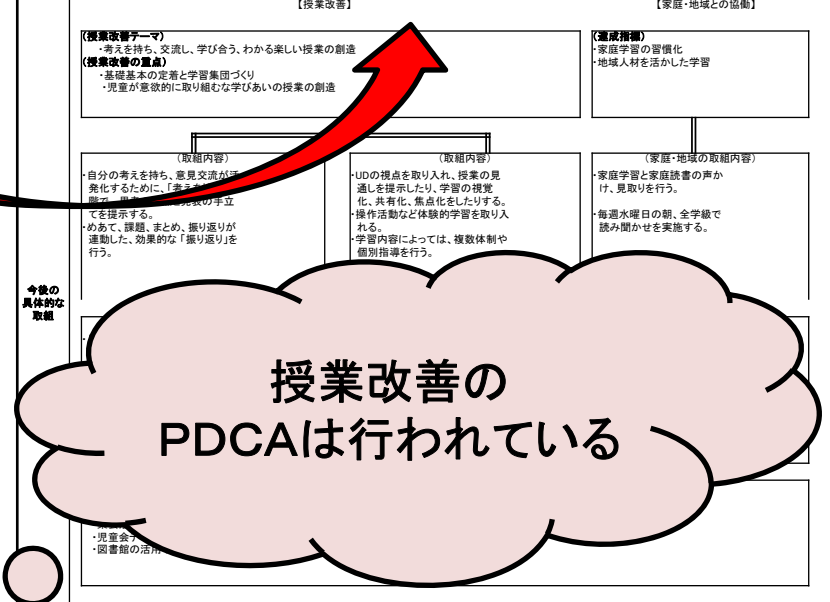
4月の
学力向上プラン
授業改善5点セット



宇佐市立和間小学校 学力向上プラン1 (H29・8)

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	<ul style="list-style-type: none"> 1 各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 <ul style="list-style-type: none"> ・国語は、読解、物語文の活用問題とあるから、読解で文章を書く力が弱い。 ・算数は単位換算、角、立方、活用問題や記述式が苦手。 ・理科は理由を説明する問題が弱い。 2 授業改善の検証指標に照らし合わせて評価した状況 <ul style="list-style-type: none"> ・1学期の単元末テストで目標値を9割の子が超えるに達して国語94%、算数81.9%と下回った。個別の学習支援が必要な子がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 <ul style="list-style-type: none"> ・社会的や規範意識が高い傾向にあるものの学習活動等で対人関係が苦手と感じている子がいる。学級集団づくりと個別の学習支援の両方が必要である。 2 授業改善の検証指標に照らし合わせて評価した状況 <ul style="list-style-type: none"> ・教職員評価で「考えを書いたり伝えたりできる」は、2.25で0.15点高かった。児童評価で「授業がわかりやすく、楽しい」は、2.53で0.13点高かった。
指導の状況	<ul style="list-style-type: none"> 1 組織的な授業改善の取組状況 <ul style="list-style-type: none"> ・1時間完結型の授業で、考えを持つための課題や視点の工夫、文章整理術し、実践してきている。 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 <ul style="list-style-type: none"> ・学び合う集団づくりの基礎として、「あいさつ、言葉づかい、返事」に行き、家庭学習、家庭読書の着取り、声かけ加えて、新年度の 	
学力に関する達成指標	<ul style="list-style-type: none"> <達成指標>○単元末テストの目標値を9割の子が上回る。○H30年1月のCRT検査で、全学年、全教科で全国平均を達成する。 <検証指標>○教職員評価で「考えを書いたり伝えたりできる」を2.4以上に上げる。 ○児童評価で「授業がわかりやすく、楽しい」を2.4以上に上げる。 	

1学期末の
学力向上プラン
授業改善5点セット

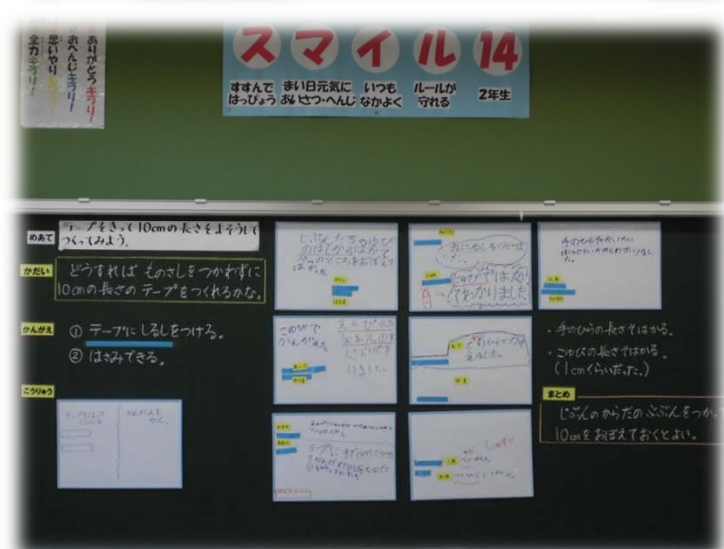


授業改善の
PDCAは行われている

2 本校の「授業改善」の現状と課題(研究授業・研究会)



2 本校の「授業改善」の現状と課題（研究授業・研究会）



2 本校の「授業改善」の現状と課題（授業改善研修）

実践交流カード ～「これもちょっとやってみよう」～ NO.1 和間小

<効果的>

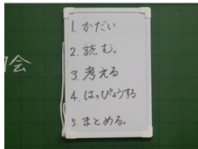
- 二人ペアで、辞書を使って熟語を五つずつ調べ、ホワイトボードに書き、交流する。
- 課題に対しての考えをノートに書かせる。その間、机間巡視で内容を把握。交流の場で「同じ考えの人が他にもいたよ、発表して」「OOさんの考えを聞かせて」「OOさんも同じような考えじゃなかった、みんなに教えて」と声をかけ、発言を促す。
- 話し合いが活発になる学習形態（コの字方） ○並行読書のコーナー（行事にあわせて）話し合いがしやすい、顔が見える。



- 「和間っ子キラリ」のコーナー、学級でのキラリ見つけ視覚化で子どもも意識する



- 本時の授業の流れを示す。何をやるかが見通しが持てる。安心して授業を受ける、思考が発展する

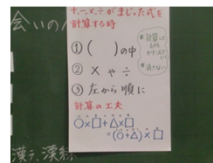


<改善点>

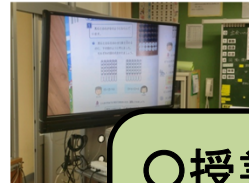
- ・発問が矢継ぎ早になると、ついていけない子どもがでる。
- ・主要発問と補助発問の区別をする。
- ・引き受けられる課題になっているか



- 既習事項の掲示と繰り返し、授業での活用により定着を図る



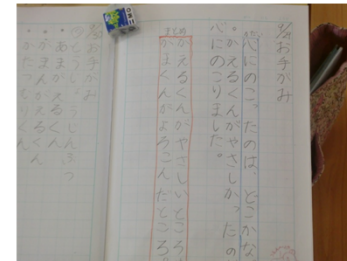
- ICT 機器の活用、視覚化、能率的（書画カメラ）児童のノートや考えを共有化することにも活用を



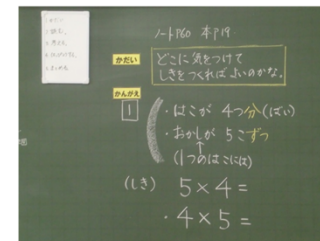
実践交流カード ～「これもちょっとやってみよう」～ NO.2 和間小

<効果的>

- ノート 課題（青） 考え まとめ（赤）

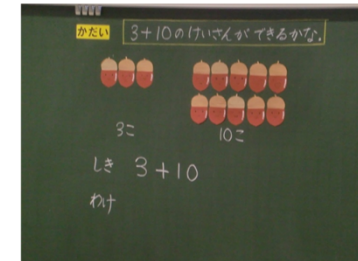


- 本時の流れの掲示 課題と考え

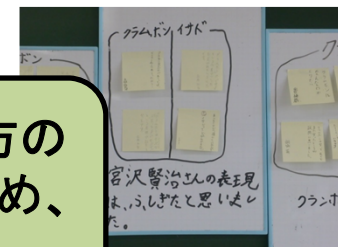


- 並行読書 図書を紹介

- 視覚化の工夫 黒板上で操作もできる



- ホワイトボードと付箋を使って考えをまとめ交流に使う。（KJ法）



○授業改善研修の資料として先生方の実践事例を「実践交流カード」にまとめ、授業力向上に役立ててもらおう。

2 本校の「授業改善」の現状と課題（課題は何か）

<現状>

- ・学校経営方針（教育目標）、4点セット、学力向上プラン、授業改善セット
- ・組織（運営委員会、校内研修会、分掌部会、学年部会）
- ・PDCAサイクル カリキュラムマネジメント 等

箱（形）はできつつある



<課題>

- ・モチベーションをどう高めていくか
- ・校内研究（授業改善）をどう充実させていくか
- ・効率的なマネジメントサイクルをどう作っていくか

問題は箱の中身

～限られた教育資源をどう活用するのか～

2 本校の「授業改善」の課題(教職員の思い)

授業改善は自分なりにやっている……

「なぜ組織的な授業改善を進めなければならないか？」

「自分のやりたいこと」と

「やらなければならないこと」
＜組織的な授業改善＞の

ギャップ

ボトムアップ

小さい職場の中で自分のやらなければならない仕事を精一杯やっている。

時間をどう生み出すのか？

校内研究(授業改善)の結果、自分の授業力は向上しているのか？ <不安>

3 教頭として何ができるか

「組織的な授業改善」を進める上での課題を整理すると 3つ

「組織的な授業改善」の意味づけ

- なぜ、「組織的な授業改善」が必要なのか
- そうすると、どんないいことがあるのか(どんな成果に結びつくのか)

個々が主体的に取り組む「授業改善」の手立て

- 「受け身的な取組」から「主体的な取組」になるシステムは・・・

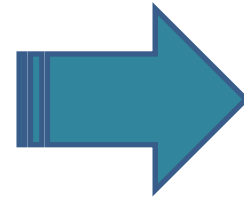


個々の授業力の向上・課題が自覚できる評価・改善のあり方

- 校内研究や授業改善研修が個々の授業力向上に結びつく。
- 改善が自覚できる評価システム

3 管理職(教頭)として何が出来るか 「組織的な授業改善」の意味づけ

個による
授業改善



組織的な
授業改善

これまで

自分のやりたいこと
自分のペース
すぐに行動できる
* 広がりが...

教頭として
納得させること
ができるか

これから

学校全体が変わる
協働でやる達成感
引き継げる
* スピード感と...

3 管理職(教頭)として何ができるか 「組織的な授業改善」をどうすすめるか

生徒指導の三機能の考え方が「組織的な授業改善」
(校内研究)を活発化させるヒントになるのでは・・・

自己決定の場

- 校内授業改善の内容の中でも、自分が一番やりたいことを自分で決める。(自己目標)
- +1(プラスワン) <自己選択>

自己存在感を 与える場

- 若手教師のチャレンジ精神を引き出す。(積極的な失敗はOKという雰囲気作り)
- ベテラン教師の経験知を生かす場

共感的人間関係を 育む場

- 校内研究会の形はワークショップ型に。
- とにかく研修の中で一人ずつが自分の思いを表現する時間を増やす。

3 管理職(教頭)として何が出来るか 「組織的な授業改善」をどうすすめるか

<悩み> 校内研究会の中身は勉強になった。しかし、明日からの授業で自分は具体的に何をすればいいのか・・・ (モヤモヤ)

授業改善PDCA サイクルの課題

- 研究会の反省・評価(成果・課題)はまとめていても、具体的な授業改善策・次回の計画までいかないことが多い。

明日からの授業に
つなぐために

- PDCA
- →DCAP

授業改善の連続性を考えると研究会の終わり方はP(次の具体的計画)

* 明日から何をするのかの確認まで

3 管理職(教頭)として何が出来るか 授業力の向上と課題が実感できる評価をどうするか

評価 ……管理職の重要な仕事の1つ
自己評価と組み合わせ、資質向上(授業力向上)に結びつけたい。

組織的な授業改善プランに沿った実践

授業力の向上と課題が実感できる評価

個々、全体のモチベーションアップ

3 管理職(教頭)として何ができるか 授業力の向上と課題が実感できる評価をどうするか

具体的な方法として「ルーブリック評価」

- 授業改善で教師が「つけたい力」を明確にする
- 「つけたい力」を評価観点にして整理する
- ルーブリック(判断基準表)にレベル整理する

課題の質は

交流は

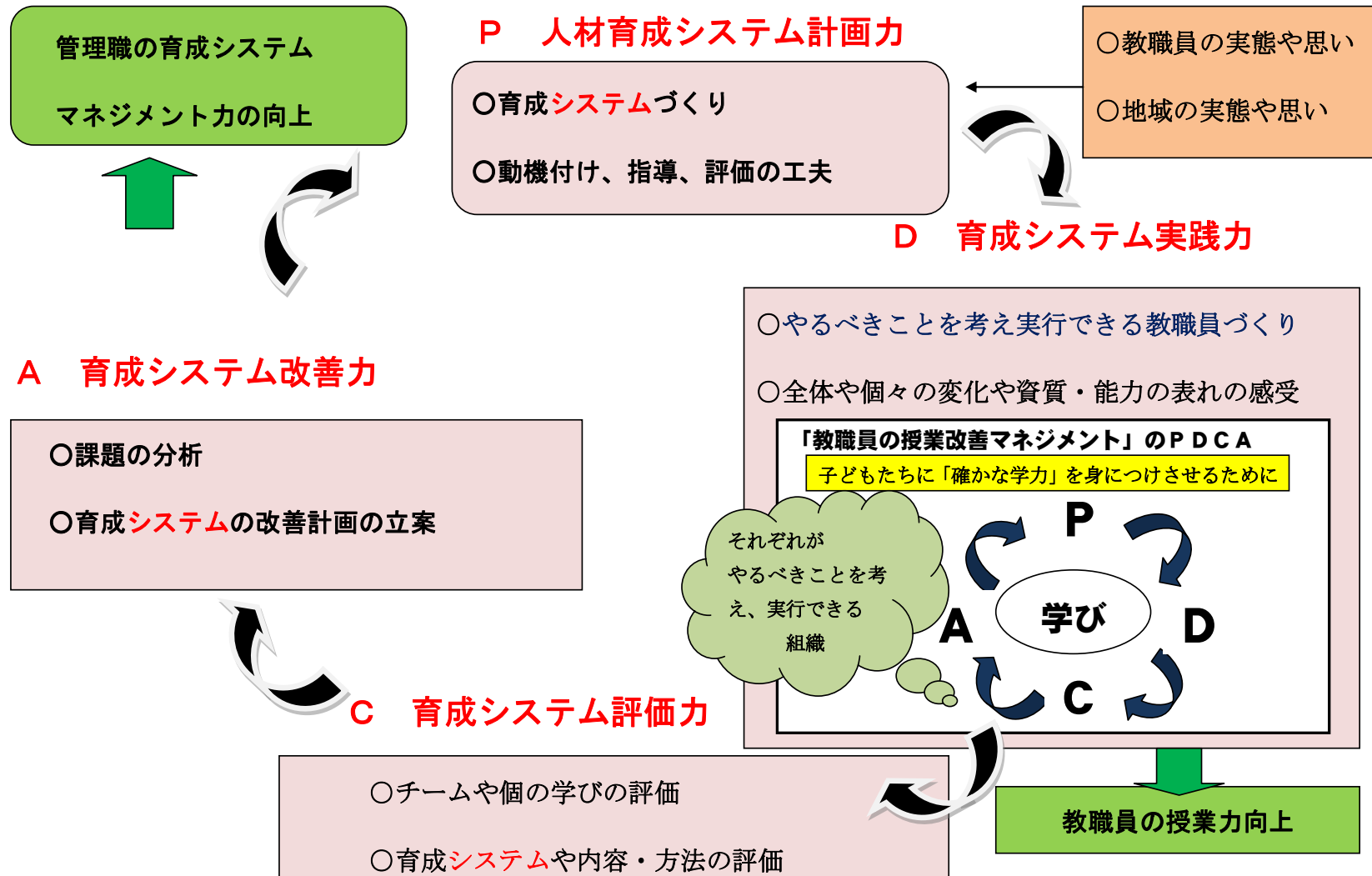
振り返りは

教師も子どもも自分の成長を実感することが、次のエネルギーにつながる。

3 管理職(教頭)として何ができるか

管理職の人材育成マネジメントと教職員の授業改善マネジメントの関係

「管理職の人材育成マネジメント」のPDCA



おわりに

- 教頭の「役割」は・ ・ ・

校長の補佐

プラス ワン

ジョイント